

# 【宇部市】地域ぐるみの防災キャンプ

## 〈ねらい〉

学校・保護者・地域・関係機関が連携し、防災について学ぶとともに、防災訓練や避難所生活を想定した宿泊体験、炊き出し訓練、救急救命訓練等を含む総合的な体験学習を実施し、児童生徒が災害発生時において、正しい知識をもとに的確に状況を判断し、自ら安全に行動することはもとより、他の人や社会に貢献できる心と実践力の育成を図ります。

## 実施内容

- 1 実施日時：令和元年8月22日（木）・23日（金）
- 2 実施場所：宇部市立黒石中学校
- 3 参加者：黒石小学校児童8名、原小学校児童10名、黒石中学校生徒16名  
保護者4名、学校教職員35名、地域住民10名、市関係職員25名  
市教育委員会8名、県教育委員会1名

## 4 プログラム

【1日目】8月22日（木）

14:00	15:30	17:00	18:30	19:30	20:45	21:30
受付	避難訓練	【避難所開設講習①】 厚東川氾濫経験者 「実体験に基づく『自助・公助』の心」 県学校防災アドバイザー 「各地被害の様子」	【避難所開設講習②】 県学校防災アドバイザー 地域福祉・指導監査課 段ボールベッドづくり	炊き出し訓練	【講話】 県学校防災アドバイザー 「避難生活はどのようなものか」	就寝準備 就寝

【2日目】8月23日（金）

6:00	6:30	8:00	10:30	11:00	11:30
起床	朝食	【防災活動】 ・消火器体験 ・消防車体験 ・ロープワーク、担架作り ・車椅子サポート体験 ・視覚障がい者サポート体験 ・地震体験	アンケート記入 振り返り	閉会行事	解散



## 5 活動の様子

### 1日目

#### 《避難所開設講習①》

厚東川氾濫経験者で、校区在住の大亀氏に、昭和17年の厚南大風水害（周防灘台風）の状況について講話をいただきました。講話を通して「自助・共助・公助」の意味や大切さについて学びました。

県学校防災アドバイザーの弘中氏に、山口県内のこれまでの災害の様子について教えていただきました



#### 《避難所開設講習②》

県学校防災アドバイザーの弘中氏、久保田氏をはじめ、市地域福祉・指導監査課、拠点要員に方々の指導のもと、避難所の作り方、段ボールベッドの作り方を学びました。多くの時間を要しましたが、失敗しながらも児童・生徒は意欲的に活動しており、完成したときの喜びを感じることができました。



### 《炊き出し訓練》

支給された水を使って、アルファ化米にお湯を注ぎ、非常食の食べ方を体験しました。また、地域の方々のご協力で豚汁もおいしくいただきました。あわせて、乾パンを食べました。児童・生徒にとっては、初めての体験で、食料の大切さを感じながら食べました。



### 《講話》

県学校防災アドバイザーの弘中氏に「避難所生活はどのようなものか」について講話をいただき、避難された方々の気持ちや思いが異なることや避難所のルール決めが大切であるなどを教えていただきました。



## 2日目

### 《ラジオ体操・朝食》

全員が元気に屋外でラジオ体操をした後、体育館で、ビスコと野菜ジュースの朝食を摂りました。前日にはじめて会った仲間とも1日の様々な活動を通して、仲間意識が高まってきました。



### 《防災活動》

①消火器体験  
(講師：消防団)



②消防車体験  
(講師：消防団)



③ロープワーク・担架作り  
(講師：消防団)



④車椅子サポート体験  
(講師：市社会福祉協議会)



⑤視覚障がい者サポート体験  
(講師：市社会福祉協議会)



⑥地震体験  
(講師：市防災危機管理課)



## 【児童・生徒の感想から】

- 災害に遭ったときには、「自分の命は自分で守る」ために、早めに避難したり、的確に判断したりすることができるようになりたいです。また、子どもやお年寄りを優先し、できるだけ周りの人の役に立てる人間になりたいです。
- 食事は非常食、夜は段ボールベッドで寝るという生活は、1～2日だけなら平気かもしれませんが、毎日続くとなると、かなりきついと思います。防災キャンプでは、防災に役立つ情報や障がいのある人のお手伝いをする方法を聞きました。このことをいかして、これから生活をしていきたいと思います。
- 車椅子サポート体験では、声かけをすることの大切さを学びました。もし、困っている人がいたら、積極的に声をかけてできることをしたいと思います。地震体験では、初めて「震度7」を体験しました。思った以上の揺れで、びっくりしました。
- 非常食だから、いつもみたいにおなかいっぱいにはならなかったけど、避難者の苦労を感じることができました。
- 2日間の防災キャンプに参加して、今後災害が起こったときに必ず役に立つ内容を学ぶことができました。1日目の被災体験者や学校防災アドバイザーの話を聞き、宇部市の昔の災害やこれまでの山口県の災害について知ることができました。そして、ベッド作りは、寝てみると壊れてしまいました。もっと丈夫にしていねいに作らないといけないことを学びました。1日目の防災活動では山口県ではこれまでに起きていない「震度7」を体験し、身の危険を生で感じることができました。
- 担架作りを体験しました。棒2本と毛布1枚で作れるなんて驚きでした。また、「震度7」まで体験しました。実際に大きな地震が起こったときには、ものはほとんど倒れると思うので、事前に固定したり、整理整頓をしたりするなど対策をしておこうと思いました。
- 避難の大切さがよく分かりました。避難所では、何もしないのではなく、助け合ったり、ルールを決めたりすることが大切だと教えてもらいました。もし、今後災害が起こった場合には、この2日間で学んだことをいかし、行動していこうと思いました。そして、日頃から教えていただいたように、「自助・共助・公助」つまり、「迅速・隣愛・仁心」を考えて行動しようと思いました。
- 最初は同じグループに知り合いがいなかったので、不安でしたが、最後には友達になれてよかったです。段ボールベッドは寝心地が悪かったです。これも体験してみないと分からないことで、被災者の気持ちが少し分かりました。
- 防災キャンプに参加して、防災についての知識が身につきました。前もって、災害のための準備をするなど、防災について家族と話し合うことができるきっかけになったと思います。
- いろいろな災害の爪痕の写真や動画を見て、本当に怖かったです。近い将来、南海トラフ地震が来ると言われています。万が一の準備を今のうちからはじめようと思いました。
- 普段学ぶことができない災害について、もし自分が災害に遭ったときの判断力や行動などを教えてもらいました。今後、もし災害に遭って家族や近所の人たちと避難をすることが会った場合には、リーダーシップをとれるようになりたいです。